

しかし一部の家族が、個人で購入している実状で、まだ大多数のPMD児は、電動車椅子を使用できない。管理上の問題はあがるが、もし手動車椅子と同様、電動車椅子も補装具として、購入できたなら、これまでのPMD児の生活は、確実に改善できると考える。

20. PMD児の臥床時における排便姿勢の工夫

国立療養所東埼玉病院

大野 美佐子 上野山 せい子
河西 信子 生 巢 百合子
山 本 照 美

〔目 的〕

PMD児の中には、障害度の進行と共に脊椎に変形をきたすことにより、身体の位置の安定が図れず、排便時トイレ使用では姿勢が保たれないことと、不安定な体位では排便までに時間もかかり骨折などのおそれがあり危険である。又重症化によるベッド臥床にもかかわらず、排便にはトイレを使用したり、ベッドサイドでポータブル便器を使用している為、病状の安静維持の面からも、ベッド上にて安楽な姿勢で排便ができたらいと思ひ工夫してみることにした。

〔実施方法〕

障害度8度児で脊椎に変形の著明な患児数名を対象として、最初差し込み便器を試みたが、柔軟性がないことから殿部痛などの訴えが多く拒否反応が見られた。そこでゴム便器に切り替え、まず起床時便意の有無にかかわらず臥床のまま、ゴム便器を挿入してみた。しかし腹圧がうまくかからない為と慣れない為とで、長時間かけても排便がなく、あっても残便感がありすっきりしないと不満や拒否反応が現われた。

対策として、対象児に起床時コップ1杯の食塩水を飲用させ、便意を訴えた時にゴム便器を挿入することと、便器の空気調節で各児に合わせ、臥床より起坐位可能な患児には枕や坐布団を使用したり、バックレストや坐椅子ベッドの柵を利用して、体位の安定を図った。又どうしても使いたくないと拒否していた患児には、その必要性を話し時間をかけて説得した。

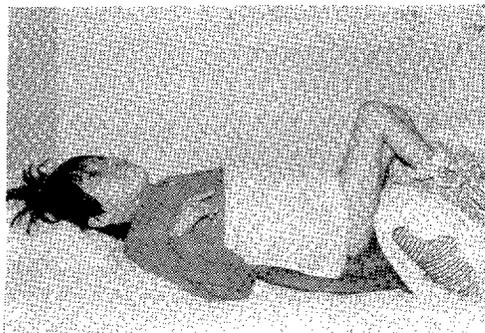
〔結 果〕

最初拒否していた患児でも、理由を説明し、長時間かけての説得で不満ながらも応じてくれた。又食塩水飲用の効果も十分あった為か、月日がたつにつれ排便までの時間も短縮され、ある患児

写真1



写真2



では1時間かかっていた最初に比べ、約2カ月後の今では2、3分あるいは長くても30分で済むようになった。又排便時間もまちまちであった患児も、ほとんどが朝食前かあるいは朝食後に便意を訴え登校時間にも遅くることが少なくなり、体位も各児安楽な姿勢が決まり、スムーズに介助ができるようになった。

以上のことよりゴム便器を使用することは、日常の生活習慣となった。

〔考 察〕

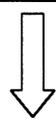
障害度は進行しても「排便はトイレでするもの」ととらえられていただけに、ベッド上で排便することは苦痛と精神的不満があったように思う。しかし時間をかけての説得で、排便はベッド上ですることが彼らにとって、日常の生活となりつつあることと、障害度の重い患児ばかりでなく、ベッド臥床したすべての患児にとってもゴム便器使用は、通常のこととなりつつあり良い結果を得た。

最後に今回の研究目的である、安楽な姿勢の工夫は特に試みなかったけれども、それに至るまでの前段階として、ゴム便器を使用して見た結果を報告した。

今後も、各児に合わせた工夫はもちろんのこと、この患児たちと一緒にになり、より適した生活の場作りに取り組んで行こうと思いつつ臥床時における排便姿勢の工夫の第1報とする。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

PMD 児の中には、障害度の進行と共に脊椎に変形をきたすことにより、身体
の位置の安定が図れず、排便時トイレ使用では姿勢が保たれないことと、不安
定な体位では排便までに時間もかかり骨折などのおそれがあり危険である。又
重症化によるベッド臥床にもかかわらず、排便にはトイレを使用したり、ベッ
ドサイドでポータブル便器を使用している為、病状の安静維持の面からも、ベ
ッド上にて安楽な姿勢で排便ができたらと思い工夫してみることにした。